

「人口（将来推計）」に関する主な意見

コロナ前から少子高齢化に歯止めがかからず苦しんできたが、コロナの蔓延により事態はさらに悪化すること考えられ、人口推移の予想も下方修正する可能性もあるのではないかと。

本構想の策定にあたり、岐阜市の人口を推計する際に、コロナ禍における人口推移（2021年4月1日まで）を加味しております。いただいたご意見につきましては、課題として認識し、本構想に基づき取り組み際の参考とさせていただきます。

「将来像」に関する主な意見

将来像のイメージ図がわかりやすい。一方で、目指すまちの構成要素として、「人と人とが関わり、つながる」とある。「人」と言うと個人を想像しがちだが、法人などの組織も含めた関わりも重要になるため、そうした観点も含めて人と人が関わって繋がっていくことが重要。

将来像のキーワード(案)として、「人がつながる」と示していますが、その中で多様な主体の連携という視点も含めて検討していきます。

コロナの問題やコロナ後の社会の見通しがまだ想像できない中で、2040年までを見通すのは困難ではあるが、予想できない問題を解決する、変化を柔軟に捉える、人と人の繋がりを大切にするなど、2040年を目指す動きは、コロナ後の社会のあり方に繋がるのではないかと思います。

将来像のキーワード(案)として、「人がつながる」や「変化にしなやかに対応」と示していますが、コロナ禍の教訓を踏まえたものとなるよう、検討していきます。

将来像（目指すまちのイメージ）は、もう少しわくわく感のある言葉、キャッチフレーズがあると子どもたちは魅力を感じて、岐阜市が好きになるのではないかと思います。

将来像のキーワードを検討するとともに、言葉の内容をイラストでわかりやすく表現するなど、子どもたちにも興味や関心を持ってもらえるよう、本構想の策定を進めます。

「オール岐阜のまちづくり」・「シビックプライドの醸成」に関する主な意見

「オール岐阜のまちづくり」、「シビックプライドによるまちづくり」に大いに共感した。岐阜への愛を育み、主体的に尊重し合いながら関わっていく。そしてチャレンジや失敗を受け入れ、SOSも発することができる。そういった環境が、子どもたちを育てやすく住みやすい岐阜づくりに繋がっていくのではないかなと思う。

「まちづくりの基本的な考え方」に「オール岐阜のまちづくり」や「シビックプライドの醸成」を位置付け、ご意見の内容について記載予定です。

「DXと脱炭素化」に関する主な意見

人口減少、自治会の加入率の低下、公共交通利用者の減少、地域イベントの維持困難、老舗店の廃業などの問題がコロナによって改めて認識されたのではないかなと思う。その中で、テレワークやオンライン授業、オンラインでの小児科のサービスなど、新しい形が出てきている。民間のサービスは非常に速度が速い。時間が加速しているという考えのもと、行政も対応し、支援していける形を検討してほしい。

「まちづくりの基本的な考え方」に「DXと脱炭素化」を位置付け、その中で、行政におけるDXの推進について記載予定です。

ワクチン接種の予約に関して、Web予約ができないという不満の声が多かった。デジタル化を進めつつ、デジタルデバイス（情報格差）にもしっかり対応してほしい。

「まちづくりの基本的な考え方」に「DXと脱炭素化」を位置付け、その中で、情報格差に丁寧に対応していくことを記載予定です。

「持続可能で選ばれるまち」に関する主な意見

子育てと雇用を両輪として力を入れていくことは大切だと思う。こうした取り組みが、親子に程良い距離感を生み、経済的にゆとりができ、コロナ禍で増加傾向にある自殺や児童虐待などの問題も減少してくるのではないかなと思う。

「持続可能で選ばれるまち」について、SDGsは浸透してきている。結局は、市民一人ひとりが主体的に取り組むことが必要。市民が参加したくなるような取り組みを目指してほしい。

「まちづくりの基本的な考え方」に「持続可能で選ばれるまち」を位置付け、その中で、子育てしやすく働きやすいまちを目指すことを記載予定です。

「まちづくりの基本的な考え方」に「持続可能で選ばれるまち」や「オール岐阜のまちづくり」を位置付け、SDGsの達成に向けた取組の推進や、まちづくりの当事者である市民一人ひとりの活動を促すような、まち全体の機運づくりについて記載予定です。

「教育・子育て分野」に関する主な意見

不登校、外国籍の子ども、生活に困窮している家庭の子どもなど、様々な課題を抱えた子どもたちは、コロナ禍において、多くの制限を受けたので、今回の経験を教訓として継続して支援を受けられる仕組みを検討する必要があると思う。

小さい託児所を増やせば子育て世代の利便性が高まり、子どもの数も増えるのではないかな。

これからの人口減少時代の社会構造の中で、子どもたちに求められる資質・能力は変化していくと思われる。どのような資質・能力を求めるかについて検討すると、未来都市構想の具体的な施策部分につながるのではないかなと思う。

目標や夢、挑戦しようとする意欲のある子どもの数は全国の中でも最下位のレベル。これから20年後、岐阜市を支える子どもたちの意識を変化させることについて、喫緊の課題として対策を講じる必要がある。

臨時休業中、主体的に学べる子とそうでない子で格差が生まれた。従って、探究力、問題解決力を育成していくことも、今後教育の場において、大きな役割だと思う。そのためにも岐阜市の中で子どもたちが活躍する場を作っていくことが大事だと思う。

コロナは子どもたちの意識を変化させる契機にもなった。世の中には正解がないこと、予測不可能なことがたくさんあることをコロナが教えてくれた。今までの知識重視の社会からそうではない社会を作り上げていくという意識をもった子どもたちにしなければいけない。

様々な困難や悩みを抱える子どもを支援する取組の充実を目指すという方向性を記載予定です。

※資料2:P6

多様な保育サービスの充実をはじめ、子育てに希望と安心のあるまちを目指すという方向性を記載予定です。

※資料2:P6

次代に求められる資質・能力として、自ら考え、選択して行動する力を位置付け、その力を育む教育を推進するという方向性を記載予定です。

※資料2:P7

子どもたち一人ひとりが望む生き方を探究し、才能開花や好奇心・探究心・創造力の育成、自己肯定感の向上につながる教育を推進するという方向性を記載予定です。また、子どもたちの活躍の場づくりについても想定しながら、まちの中の多様な地域資源を活かした学びと実践の機会を創出するという方向性についても記載予定です。

※資料2:P7

幼児期において非認知能力を育む教育を推進することや、小中学生などが望む生き方を探究し、才能開花や好奇心・探究心・創造力の育成、自己肯定感の向上につながる教育を推進するという方向性を記載予定です。

※資料2:P7

「健康・福祉・医療分野」に関する主な意見

自治会加入率を高めるためには、男女共同参画などのダイバーシティの視点を推進していく動きが必要ではないか。

この1年はずっとコロナ対応に追われており、医療従事者が大変な状況になっている。

コロナがまん延することにより日常的な受診の控えが出てきているのが問題。実際に手術数も減っている。

男女が対等な立場で個性と能力を発揮できる男女共同参画社会を目指すという方向性を記載予定です。

※資料2:P11

地域の医療需要を見極めながら、安定的に医療を提供できる体制を構築するとともに、感染症に強いまちづくりを進めていくという方向性を記載予定です。

※資料2:P12

「市民協働・防災・環境分野」に関する主な意見

自治会の加入率が非常に下がっているが、一方で、まちづくり協議会を設立し、地域文化の再発見や、人と人の繋がりをより良くするための活動をしている。協議会の設置は50地区のうち、現在43地区まで増加している。今まで自治会が主体でやってきたことがまちづくり協議会にシフトしていく過程の中で、市からまちづくり協議会にお金を出してもらい、地域全体の仕事ができるような形になっていくと良いのではないかな。

自治会はあくまで任意の団体なので、資料配布などの行政の仕事を過剰にお願いするのは、今後再考したほうが良いのかもしれない。

自治会加入率が全国的に非常に低下している。岐阜市においても10年前と比較し、約8%低下した。様々な対策を行っているが、依然として改善方法が見えてこないのが現状。

まちづくり協議会の設立や、活動を支援するという方向性を記載予定であり、その具体的な取組の中で、いただいたご意見についても参考にさせていただきます。

※資料2:P14

地域のまちづくりにおいて、行政の重要なパートナーである自治会の重要性を認識し、活動等を支援するという方向性を記載する予定であるとともに、その具体的な取組の中で、いただいたご意見についても参考にさせていただきます。

※資料2:P14

地域住民の自治会への加入及び自治会の活動への参加がしやすい環境づくりを行政が支援するという方向性を記載予定です。

※資料2:P14

「市民協働・防災・環境分野」に関する主な意見

自治会への加入については、自治会の会員が小さなことから少しずつ地域活動を行っていき、その地域にお住まいの方からの目を変化させていけば加入率を改善することも可能ではないか。例えばゴミ出しなど、お互いに助け合うという観点から始めていけば、少しずつ色んな人の地域活動への認識が変わってくると思う。

岐阜市には長良川や金華山等良い所がたくさんある。岐阜の良さをアピールして外から来る方を受け入れる動きも必要ではないかと思う。そして他県から来て近くに知り合いがいない方が気軽に相談できる体制も必要だと思う。

デジタル化が今後進んでも、近所の声の掛け合いという岐阜の良さ、人情が育まれるようなまちづくりをより大事にしたら良いと思う。誰一人取り残されないまちづくりという方針は、言葉では簡単だが、実行するのは並大抵のことではないと思う。

今後は年齢を重ねても活動を続けていけるような町内会が必要ではないか。また例えば空いているアパートを学生寮として貸し出し、その学生の方々に地域のボランティアとして町内活動を支えてもらうのも良いのではないか。

市民自身が問題意識をもって地域活動を進めていき、その中で行政とうまく付き合う関係を持つことが大切だと思う。

自治会の活動を支援するという方向性を記載予定であり、その具体的な取組の中で、いただいたご意見についても参考にさせていただきます。

※資料2:P14

本市への移住・定住につながる取組を推進するという方向性及び、様々な見守り活動や助け合い活動、公的な相談支援体制との連携など互いに助け合う地域づくりを促進するという方向性を記載予定です。

※資料2:P14,28

様々な見守り活動や助け合い活動、公的な相談支援体制との連携など互いに助け合う地域づくりを促進するという方向性を記載予定であり、その具体的な取組の中で、いただいたご意見についても参考にさせていただきます。

※資料2:P14

自治会の重要性を認識し、活動を支援するとともに、未来を担う若い世代も含めたすべての世代のシビックプライドの醸成につながるよう地域での様々な活動を実践する機会を創出するという方向性を記載予定です。

※資料2:P14

個人や団体が主体、あるいは行政との連携・協働により、地域社会の課題解決を図る取組を促進するという方向性を記載予定です。

※資料2:P14

「産業・労働・交流分野」に関する主な意見

コロナ禍で非常に厳しい状況だと思う半面、新しいことにチャレンジできる良い機会と捉えることもできる。自らが課題を見つけ、何かを生み出し、社会を変えていく、そんな時代だと思う。

事業者一人ではなく、自治体、金融機関等も含め、様々なノウハウを持った方が集まって協働することが、新しい分野への挑戦を促したり、解決していくために重要なことだと思う。

岐阜市の創業案件が増加している。行政がスタートアップに力を入れている中で、金融機関としてもしっかりと協力していきたい。

ビジネスを通してどんな岐阜市にしたいか、といったビジョンを明確にするのが良いと思う。また、新しいビジネスや産業を官民で連携して実現するためのビジョンも併せて明確にしていくと良いと思う。

「まちづくりの基本的な考え方」における「オール岐阜のまちづくり」の中で、新しく事を成そうとする人たちを支え応援するまちを目指していくことを記載予定であり、また、民間の新しいチャレンジを応援していくという方向性についても記載する予定です。

※資料2:P18

「まちづくりの基本的な考え方」における「オール岐阜のまちづくり」の中で、多様な主体の協働を促進する方向性を記載予定であり、また、産学官連携によるイノベーションを創出していくという方向性についても記載予定です。

※資料2:P18

民間の新しいチャレンジを応援していくという方向性の中で、産学官連携でスタートアップを創出していくということについても記載予定です。

※資料2:P18

「産業・労働・交流分野」に関する主な意見

創業に関連するクラウドファンディングは、新しい資金調達方法として有効ではあるが全ての案件が上手くいくわけではない。ターゲットやPR方法などを明確にしないと厳しい状況。一方で、テストマーケティングとして市場の調査を行う際に利用されることもあり、これからの伸びしろを感じる取組。

コロナにより今までの常識が通用しなくなった。コロナがまん延する前と比較して、コロナ後は80から90%までしか経済状況が回復しない可能性もある。だからこそ社会の変化に柔軟に対応していくことが必要。

学校休業の際に影響を受けたのがパートタイマーや女性の方。仕事を辞めざるを得なくなり、収入が大きく落ちてしまっている。これからの持続可能なまちづくりのために働き手のニーズに合わせた新たな働き方を提示していくことが大切ではないか。

自ら稼ぐ地域産業の支援という方向性を記載予定であり、その具体的な取組の中で、いただいたご意見についても参考にさせていただきます。

※資料2:P18

将来の産業構造の変化にも適応し、新たな価値を生み出すことのできる柔軟で創造性の高い組織や人材を育成するという方向性を記載予定です。

※資料2:P18

ワークダイバーシティを推進し、時間や場所にとらわれない、短時間・フレックス・テレワーク、兼業・副業など多様な働き方の導入を促進するという方向性を記載予定です。

※資料2:P20

「構想の策定プロセス」に関する主な意見

未来懇談会の構成メンバーについては、女性の割合が低いのではないかと思います。男女平等や未来のまちづくりについて話し合う際に、色々な立場からの思いが届かないのではないかと思いますので、今後の意見聴取などで、女性やこれから先の担い手となる10代20代の方々に岐阜市に対する思いを話してもらう機会を設けてもらうと良いのではないかと。

誰もが住み続けたいまちにするためには、若者など多様な人の力が必要になる。高校生や大学生とも積極的に意見交換していくのも良いのではないかと。

本構想の策定にあたって、多様な声をお聴きする機会の一つとして、8月から9月にかけて、市民ワークショップを開催し、様々な世代の女性や、中学生、高校生、大学生を含む若い世代にも参加いただきました。そこでのご意見も参考とし、構想の策定を進めていきます。